

水族館の活動でも変化はありましたか？

平成15年度からバックヤードツアーを行ったり海に行ったりと、イベントが増えました。お客さんにも人気があったし「こういうことやるとお客さんも喜んでくれる」ということを飼育員が知ることができました。

平成22年リニューアルのさわりんぷーるは大人気ですね

さわりんぷーるはやりたいことの大爆発です。自分たちの考え方と、お客さんの生き物に触れる水槽がほしいという要望とを盛り込んで作りました。

深海魚を触らせるところは少ないので、竹島水族館ならではのものになりました。深海魚は業者から買うと実は高いんです。地元の漁師さんの協力のおかげです。

「読む水族館」と、本物の水族館。共通点はありますか？

相手がいること、見る人読む人視点で作っていくということです。水族館視点、生き物視点で書いたり展示したりすると楽しくなくなってしまう。魚のよさをうまく伝えられる人、お客さんを楽しませられる人が偉い

と僕は考えています。

究極を言えば、魚を上手に飼っている専門的な展示より、魚がすぐ死んじゃうけど100人が楽しめる展示の方が、水族館にとってもその魚にとってもいいと思っと思っています。「水槽入れちゃってかわいそう」ということも言われませんが、水族館の水槽がないと、普通の人はその魚を見たり知ったりすることができなかつた。

水族館の生き物は、その生き物の代表選手。姿や動き、存在を見てもらうために水族館に来た生き物たちを、活かさなきゃいけない。彼らを伝えてこそその水族館です。

今後の水族館、どうなっていますか？

中身も外観も、大きくなればいいと思います。外観は、もうちょっと大きいといいんですけどね。

小林学芸員ありがとうございます。お願いいたします。

100回目の「読む水族館」は9ページです。

水族館スタッフに聞きました

## 小林学芸員ってどんな人？



後輩たちを連れてご飯を食べに行ったり、後輩たちへの熱心な指導が印象的です。(桑山)



子どもが好きで、仲良くなるために長靴に魚の絵を描いたりユーモアたっぷり！(戸舘)



野心を燃やした攻撃的な働き方でバリバリ働き、水族館を楽しくしているスゴイ人！(三田)



僕たち後輩に分け隔てなく話してくれて場を盛り上げてくれる優しい師匠です。(大原)

小林学芸員をはじめ、スタッフの個性あってこそその竹島水族館。これからどんな水族館になっていくか楽しみです！